

第十三回

秦野市

親子川柳大会

入選作品集

発刊に寄せて

令和三年度よりスタートした教育振興基本計画では、教育目標の実現に向けて、「社会に開かれた教育課程」と「開かれ、つながる社会教育」の実現を目指し学校、家庭、地域が一体となって教育に取り組む環境づくりを推進し、学校教育分野と社会教育分野とのより一層の連携・協働を図るとしています。

私は、連携・協働の具体的なシンボル事業として、この「親子川柳」と「夕暮こども短歌大会」、更には「読書活動推進」そして「はだのっ子アワード」を四本柱と考えています。

そんな中、平成二十二年度より始まった親子川柳大会は、今年で十三回目を迎えました。この親子川柳は、親と子や孫と祖父母など二人がそれぞれ初句、返句を作成して二つの句で一つの作品とするものです。二人で協力して作品を作ることによって、普段思っても言えない家族間の感謝の思いや、ふれあいの言葉を川柳でやり取りすることで、家族の心のつながりを深めることにつ

ながると感じています。

入賞した作品を見ると、昨年引き続き、新型コロナウイルス流行下だからこそ見られる家庭での日常的な親子の触れ合いも見られますが、今年はとりわけ、家族で外へ出かける様子や、自然の中で遊ぶ親子の日常、友人のお泊りや夏休み中の部活動など、少しずつ今までの日常が戻ってきていると感じる、微笑ましいやり取りが見られました。こうした普段の何気ない会話などから生まれる作品を通して、改めて家族間でのコミュニケーションの大切さに気付き、お互いを思いやることや、デジタル社会の「今」だからより一層重要となる絆を深める機会の一助になればと期待しているところです。

四本柱と公言しているぐらいですから、校長会でも、設置に向けて研究を進める「ふるさと科」の教材として期待している旨を伝え、積極的なお願いをさせていただきました。その結果、全体の応募作品数は、昨年を上回る一千作品となりましたが、私は秦野の全ての子どもたちにチャレンジしてもらいたいと思っています。

作品を応募していただいた皆さま方には、家族内や学校の仲間にも川柳の楽しさ、面白さを伝えていただき、今後もたくさん素晴らしい作品が集まる事業となるよう御協力お願いしたいと思います。

最後に、作品を応募していただいた皆さまの御活躍をお祈りするとともに、大会の開催に御尽力いただきました志水義夫実行委員長及び大会実行委員の皆さま、大会の周知や作品の受付に御協力いただきました小中学校の先生方、大会へ御後援いただきありがとうございます各団体の皆さまに心から感謝を申し上げます、発刊のあいさつといたします。

秦野市教育委員会教育長 佐藤 直樹

作品講評

親子川柳大会も今年で十三回目となり、応募総数も千を超え、大きな賑わいを見せております。しかし、夏休みの食事の世話や献立、旅行に行ったことや友達と遊んだことなど、さすがにコロナを詠んだものは少なくなりつつありますが、作品は同じような趣向に溢れているため、世界が狭く感じてしまいます。最近の作品に多く見られる、句の語の言い換え・読み替えをすることで問答の体をなすパターンも微笑ましくはあるのですが、いずれも日常の枷に封印されているような寂しさがあります。

今回のハートフル大賞（議長賞）受賞の作品

（子） いったらう？ マスクはずせる 夏休み

（母） みてみたい マスクの下の 君の顔

この作品は、投稿者としての詠み手は子と母という関係ですが、「マスク」に束縛されるここ数年の日常が示され、「はずす」「夏休み」の語を合わせることで、そこからの解放を指向する発句に対して、解放された「休み」というプライベート空間でマスクなしの容貌を求める句を返すことで、「マスク越しの恋」という恋人同士のような世界を創出することに成功しています。作品が作られた背景（日常空間）から、文学空間が発生しているのです。このように読み手によって世界が広がるような作品は、実はあまり多くありません。

川柳は歌です。事実を伝達する道具ではありません。事実を連ねる物語と違い、世界を切り取り、圧縮して五・七・五の十七文字で表現するアート（芸術）であると言えます。事実であろうとそうでなかろうと、そこに用いられた言葉の織物の中から、人の営みに含まれる真実が浮かび上がるのが歌という文学です。それが作品の持つ「広がり」というもので、それは作者の思惑を超えて発生します。だから「事実」や「体験」にこだわることはありません。それらを引きっかけとして、虚構の世界に羽ばたいて作品を構築しても大いに構わないの

です。

「夏休みの宿題」として取り組んでくれている皆さんは、「夏休み」という季節に囚われすぎず、世界の「広がり」を感じる事ができるような作品にぜひチャレンジしてみてください。来年はそのような応募作品に出会えることを大いに期待しています。

実行委員長兼審査委員長 志水 義夫

入

賞

親子川柳大賞（市長賞）



（子） 飛び込んで はしゃぐ父親 子供だな

（父） 冷たいな 川のせせらぎ 息子の目

西中学校二年 塙 亘太 父 和彦

ハートフル大賞（議長賞）

（子） いつだろう？ マスクはずせる 夏休み

（母） みていたい マスクの下の 君の顔

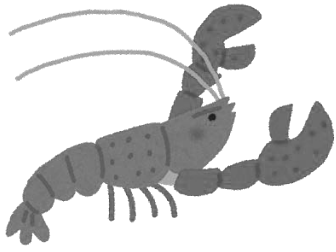


北小学校五年 石浦 優花 母 瑞紀

ベスト親子大賞（教育長賞）

（子） 大変だ！ ザリガニ一匹 増えている

（母） ほんとだね きれいに脱皮 したんだね



大根小学校二年 服部 紘太 母 友希

特別賞 秦野商工会議所賞



(子) 終わりそう 山ほどあった 宿題が

(母) 終わりそう 山ほどあった 食材が

東中学校一年 桐生 圭汰 母 美樹

特別賞 秦野市農業協同組合賞



(子) そらめんよ もう見たくない 夏休み

(母) 次からは 冷やし中華の 出番です

西小学校六年 町谷 海斗 母 美紀

特別賞 秦野ロータリークラブ賞

(父) 夏休み 娘に合わせて 休み取る

(子) ごめんパパ 予定は全部 友達と



西小学校六年 鈴木 柚加 父 忠大

特別賞 秦野ライオンズクラブ賞

(子) 宿題を やろろと決めて 早二時間

(母) 雑草を 抜こうと決めて 早二時間



東中学校一年 小泉 璃空 母 優美

特別賞 秦野丹沢ライオンズクラブ賞

(子) 友達が 初めておとまり 楽しみだ

(母) 晩ご飯 お口に合うか ドキドキだ



西小学校六年 岩田 紗季 母 恵子

特別賞 秦野名水ロータリークラブ賞

(子) ヨーイどん！ 部活一本 焦げる夏

(母) 用意する 水筒一本 足りぬ夏



大根中学校一年 柳川 まい 母 千枝

特別賞 秦野市PTA連絡協議会長賞

(子) 家庭科で 大きじ小さじ 習ったよ

(母) 我が家では 目分量が 家の味



広畑小学校五年 野口 瑠菜 母 静恵

佳

作

(母) 毎日の ご飯作り レシピぎれ

(子) だいじょうぶ 毎日ウーバー だいかんげい

本町小学校三年 夏莉 大旗 母 友子

(母) せがまれて 重い腰上げ 川遊び

(子) 親子して 石積み夢中 日が暮れた

本町小学校六年 坂本 琴音 母 美穂

(子) 高級な 車を買って ほしいです

(父) その時が 来るまで待って ほしいです

南小学校四年 小口 暖人 父 強士

(子) まだお昼? 毎日ゴロゴロ 夏休み

(母) もうお昼? 毎日バタバタ 夏休み

南小学校四年 渡邊 大翔 母 杏里

(子) 船で見た 空のけしきが 絵のようだ

(母) 空で見た 森のけしきも 絵のようだ

南小学校五年 井上 純 母 由美子

(子) 友達と プールで脂肪を 燃やす夏

(母) 母さんの 脂肪も一緒に 連れてって

南小学校五年 國島 陸斗 母 由美

(母) ご一緒に きつねダンスは いかがでしょう？

(子) ダンスより うどんがいいな きつねなら

南小学校六年 柳川 真之介 母 華代

(子) あれやそれ 言葉にしないと わからない

(父) 年とると 言いたいことが でなくなる

東小学校四年 伊藤 臨 父 和幸

(母) 反抗期? イラツとした顔 わかるわよ

(子) こう年期? いつも笑顔の ママがいい

東小学校四年 鈴野 和奏 母 有希子

(子) なつやすみ かぞくでプール はいりたい

(父) 遠いっス: 大磯やめて 市営なら

北小学校五年 安藤 春樹 父 肇

(母) 宿題を 早くやりなと 雷鳴が

(子) そろそろだ!! カミナリ落ちる 家と外

北小学校五年 飯山 滉規 母 香織

(父) 夏休み 宿題はもう 終わったの

(子) おわったよ 答えは全部 あつてたよ

北小学校五年 小関 深天 父 信夫

(子) かみの毛を くるくる巻いて 背のびかな

(母) いつからか 背伸びしないと 髪結えず

北小学校五年 小山田 心音 母 真理子

(孫) 再会は 笑顔で駆け寄る 久しぶり

(祖母) お別れは ハグして涙 また来年

北小学校五年 唐松 杏奈 祖母 小林 京子

(子) 歯がゆれる 子から大人に さまがわり

(母) 葉が揺れる 夏から秋へ 早変わり

北小学校五年 小濱 乃々果 母 恵

(祖母) まだいいか ババの洋服 ヨレヨレだ

(孫) ありがとう また新しい スカートだ

北小学校五年 高橋 小町 祖母 関野 和子

(子) 大雨を 祈りで止める 出羽の花火

(母) その祈り パワー足りずか 処暑の雨

北小学校五年 中尾 勇斗 母 静己

(子) おじいちゃん 大雨だけど これるかな

(母) 大丈夫 お盆の棚に カサ置くよ

北小学校五年 丸岡 若奈 母 美沙子

(子) ぎりぎりで 川柳やるのは つらいよね

(母) はじめから やっても内容 同じでしょ

北小学校五年 三浦 あまね 母 直美

(父) 外に出る 言っではみたが 暑すぎる

(子) 外に出た 行ってはみたが 暑すぎる

北小学校五年 吉田 優月 父 一幾

(母) マスクして 人と会う時 忘れずに

(子) メイクして 人と会う時 忘れずに

北小学校五年 芳野 公祐 母 美里

(母) ねえやめて ママに似てるね 全否定

(子) エグすぎる アラフオーママと にてるとか

北小学校六年 安井 陽葵 母 綾子

(子) かき氷 いろいろな味 虹かかる

(母) かき氷 いろいろな味 金かかる

北小学校一年 石川 大誠 母 陽美

(子) 大人たち どうしてケンカ するのかな

(母) お前だよ だいたい原因 お前だよ

北小学校五年 武井 颯佑 母 真

(子) ぶどう狩り が 楽しかったね たの 来年も らいねん

(母) ぶどうはね スーパーで買おう か 来年は らいねん

大根小学校三年 中村 朱希 母 佳世

(子) タッチパネル 高いお皿は はじかれる

(父) 寿し廻り やがてタヌキの 腹周り

大根小学校三年 福井 悠陽 父 直哉

(父) ハマスタに 子供を初めて 連れて行った

(子) ハマスタで 手拍子楽し ルール知らん

大根小学校六年 横井 和磨 父 健

(子) 夏休み ママのご飯 楽しみだ

(母) 食後すぐ 夕飯なあと 聞かないで

大根小学校三年 今井 花恋 母 理恵

(子) せみの声 こえ 世界にとどけ せかい 夏のうた なつ

(母) 宙を舞う ちゆうま 風きるタクト かぜ きみの網 あみ

西小学校一年 林 和晃 母 恵

(子) 映画観て とてもかなしく 涙出た

(父) 我が子見て とてもうれしく 涙出た

西小学校二年 高木 一護 父 佑輔

(母) 大きめに 買ったこの服 もう着れる？

(子) ふくよりも 大きくなって もう切れる！

西小学校二年 松尾 瑚音 母 遥

(子) せきどこだ 登校中に 思いだす。

(母) 積わからん？ かけ算復習 やつところ

西小学校五年 池下 穂 母 実希

(母) 反抗期 大変だけど 可愛いな

(子) うるさいな でも心配を ありがとう

西小学校五年 及川 来登 母 つぐみ

(孫) なつまつり 友と行くから おこづかい

(祖父) コロナ禍で いつの間にやら ひとり立ち

西小学校五年 小松 茉奈 祖父 昭一

(子) 遊ぶとき 時間をわすれ 母おこる

(母) 買い物で 時間をわすれ 子がおこる

西小学校五年 関野 葉菜 母 若菜

(子) おいしいね 日本一の 富士の水

(母) 秦野もね 日本一の 名水よ

西小学校五年 山口 由結 母 明子

(子) お父さん 初めて弁当 作ったよ

(父) 昼休み 弁当みんなに じまんした

西小学校六年 石井 心美 父 行信

(子) ランドセル 思い出ふかい 宝物

(父) 思い出を 6年間も 詰め込んだ

西小学校六年 北村 莉愛 父 哲也

(子) テレビより ミンミンうるさい セミの声

(母) セミよりも 部屋中響く ごはんなに？

西小学校六年 栗重 芽依 母 美実

あいだ

(子) 川柳を なやむ間に 終わる夏

(父) 待ちすぎて 返句を先に 思いつく

西小学校六年 小林 柚月 父 靖典

(母) 夏休み あと少しだ お弁当

(子) お弁当 おいしいごはん ありがとう

西小学校六年 杉本 大和 母 道代

(子) 夏休み おそくおきても いいじゃない

(母) 遅くまで 起きてなくても いいじゃない

西小学校六年 三澤 勇斗 母 智子

(母) いつのまに 娘の料理 母レベル

(子) 嬉しいな だけど愛情 まだ足りない

西小学校六年 山田 結月 母 茜

(子) うれしいな パパが知らない ことわかる

(父) みてわかる 子どもの自信 口元で

上小学校一年 藤嶋 嶺羽 父 久徳

(子) はいチーズ パパ変な顔 しないでよ

(父) 失礼な これがパパの キメ顔だ！

上小学校二年 野上 遥真 父 光一

(子) うるさいな まどをあけると セミのこえ

(母) 夏だねと パパは大好き セミの声

上小学校二年 和田 結彩 母 明日葉

(子) あせだらだら 海の魚に なりたいな。

(母) 台所 暑くて立てない 今日はお刺身

上小学校三年 久保寺 湊 母 瞳

(孫) 夏祭り 花火大会 盛り上る

(祖母) 浴衣丈 孫の成長 目をみはる

上小学校四年 石原 あおい 祖母 節子

(子) ちよ、待てよ!! まだ行かないで そこにいて!!

(母) ラブジエネを 知らぬ世代が なぜそれを

上小学校四年 久保寺 飛々人 母 みよ子

(子) 雨ふる日 パパのかみの毛 量増す日

(父) この湿度 毛が広がって 嫌いじゃない

上小学校五年 久保寺 夏大 父 大介

(母) こそこそと 何しているの 押し入れで

(子) 汗だくで マンガ読んでる ひみつ基地

上小学校五年 近藤 優希 母 佳奈子

(子) 「ももちゃんだ！」 にくまんをみて パパがいう

(母) どつちななの？ たまのようなの？ まるいかお？

広畑小学校一年 亀卦川 百恵 母 三和

(子) おかあさま いったみたけど ママがいい

(母) どうしたの 言葉だけでも おぼっちゃま

広畑小学校一年 本間 大雅 母 摩記

(子) コロナ禍で どこに行くにも 口隠し

(父) マスク着け 顔を隠して 照れ隠し

広畑小学校一年 安田 萌衣 父 光一郎

(母) 夏休み 待ち遠しいな 始業式

(子) 夏休み あつという間に 始業式

広畑小学校二年 江藤 宏章 母 沙織

(子) だいすきな トマトのきせつ やってきた

(母) いつの間に 冷蔵庫の中 トマトない

広畑小学校二年 黒山 心葉 母 紗央里

(子) 暑い夏 おなかの中に かき氷

(母) 猛暑日の 帽子の中に 保冷剤

広畑小学校二年 富田 こるり 母 綾乃

(子) 図書館で 本読んでたら すぐあきた

(母) 想定内 涼しくお昼寝 目的達成

広畑小学校二年 北村 優里 母 歩

(孫) あつい夏 エアコンつけて 今日も家

(祖母) 温暖化 日本の四季を 楽しめず

広畑小学校三年 佐藤 光翼 祖母 中川 昌江

(子) なつやすみ プールたのしい またいこう

(父) そうしよう 父は日陰で かきごおり

広畑小学校三年 前田 大翔 父 武士

(子) パパ似だね それはよろこぶ べきだよね？

(父) パパのこと ママは好きだと 言っていた

広畑小学校三年 横田 花奈 父 健太郎

(子) わからない 親子川りゆう なにかけば

(母) まかせてよ ネットで検索 してみるよ

広畑小学校四年 大森 篤武 母 愛

(子) 7月に ふくしゅう問題 終わらせた

(父) 8月の 終わりにあせる 過去の父

広畑小学校五年 亀卦川 結衣 父 貴久

(母) 包丁を 持つ手ハラハラ 心配だ

(子) ちよつとむり あとはおねがい お母さん

渋沢小学校六年 相原 啓助 母 真由美

(母) 空見れど 重なる出費に 晴れぬ心

(子) 習いごと 初めて奏でる ソラミレド

渋沢小学校二年 石渡 結菜 母 千佳

(子) 回り道 いつもと違う 散歩道

(父) 回り道 運動不足 ダイエット

末広小学校二年 高宮 彩月 父 浩之

(子) カマキリが 生まれてきたよ かわいいね

(母) かわいいよ 元気に育てと 母願う

末広小学校三年 杉崎 夢果 母 由理奈

(子) 黙すれど 下がる目尻が 「おいしいね」

(母) 「ホントだね」 上がる口角 布の奥

末広小学校六年 根岸 望珂 母 希穂

(母) 頼まれた ジュースの追加 買ってきたよ

ツイカ

(子) お：おかえり ほしかったのは スイカだよ

南が丘小学校五年 中山 姫菜 母 知恵

(子) もう少し おやすみしたい 夏休み

(母) もう少し おやすみしたい 夏休み

南が丘小学校三年 伊藤 菖 母 桃子

(子) 鏡みて ママの背ぬいたと はしやぐ子に

(母) くやしきより うれし涙が 先に出る

堀川小学校五年 橋本 真都 母 奈都子

(子) かわいいな 笑顔が見たい 弟の

(母) あやす子の あふれる笑顔 親癒す

鶴巻小学校一年 小泉 はづき 母 万理

(父) 早起きし 家ぞくのために がんばるぞ

(子) 早起きし おみおくりする パパのため

鶴巻小学校三年 亀井 景音 父 博之

(母) 音読を 手伝ううちに 全て読む

(子) 音読を 聞いてるうちに 眠くなる

鶴巻小学校三年 北條 明希 母 明日香

(孫) ミツキーに むちゆうで手をふる ママとばあば

(祖母) 手をふれば みんな子供に なれる国

鶴巻小学校三年 三谷 佳穂 祖母 一三子

(母) 朝ごはん 作ってくれたと 母かんげき

(子) 妹に おなかがすいたと 起こされて

鶴巻小学校五年 阿部 優月 母 奈々恵

(子) 水鉄砲 うっておとして めげがらを

(父) カラやぶる 成長見守る 夏休み

鶴巻小学校五年 大坂 柊野 父 崇徳

(子) 思春期は ムダ毛がいやな お年ごろ

(父) 父さんは うす毛がいやな お年ごろ

鶴巻小学校五年 笹原 朱里 父 豊久

(子) 気が付けば 遊びほうけて 最後の日

(父) 最後の日 親父出番か やっぱりな

鶴巻小学校五年 立野 恵大 父 貴之

(子) この公園 自然がたくさん 蚊もたくさん

(母) 帰り道 さされた数を 競う子ら

鶴巻小学校六年 清 光 母 寛子

(子) 黒帯の 王者まねして 汗流す

(母) 白帯の 君の頑張り チャンピオン

鶴巻小学校四年 吉川 純平 母 仁美

(子) 暑すぎて 熱中症に なりそうだ

(母) 勉強に 熱中しろと 母が言う

本町中学校一年 青柳 雄太 母 稚亜美

(父) 選挙かあ どんな候補に 入れようか

(子) 選挙カー 応援してると 勘違い

南中学校一年 室田 春樹 父 義晃

(子) また出来た マスクの下の 赤ニキビ

(母) うらやましい ママに出来たら ふきでもの

東中学校一年 井上 双葉 母 絵里

(子) 意外にも 課題おわらぬ 夏休み

(父) 意外にも 仕事進まぬ 夏休み

東中学校一年 鬼頭 里彩子 父 知広

(子) 美味しいな つい食べ過ぎる 母の飯

(母) 嬉しいな つい見過ぎちゃう 食べっぷり

東中学校一年 樽本 頼人 母 亜耶

(母)

断捨離を

明日こそはと

思うだけ

(子)

宿題も

明日こそはと

思うだけ

東中学校一年 常盤 侑沙 母 泰子

(子)

大変だ

明日お弁当

忘れてた

(母)

あたしもだ

お弁当ふたつ

よろしくね

東中学校一年 内藤 彩侑里 母 三知子

(母) やつとだな 学校始まり go to heaven.

(子) もう終わり 授業始まり go to hell.

東中学校一年 牧嶋 虎太朗 母 由香里

(母) 柿の木や 頑張る我が子 蝉しぐれ

(子) 短命や 心血注ぐ 一週間

東中学校一年 吉田 晴 母 志穂

(子) 夏休み たいくつすぎる ひますすぎる

(父) 宿題を 終わらせてから 言う言葉

東中学校二年 井口 裕琳 父 直之

(子) アイスバー 一瞬で溶かす 夏の魔法

(母) 休日を 一瞬で溶かす 子の魔法

東中学校二年 神戸 誠一郎 母 紀子

(子) 向日葵が 真つすぐ空に のびてゆく

(母) 制服の お直しなしで 卒業か

東中学校二年 齋藤 柚月 母 香苗

(父) 見上げると 雲が遠くに 秋近し

(子) 見上げると わたあめみたいで おいしそう

東中学校二年 宮原 結惟 父 純一

(子) 両親に たたき起こされ 夏休み

(父) 夏休み？ こっちは仕事だ はよ起きろ

東中学校二年 頼 晴斗 父 紘一郎

(子) ゴロゴロと 雷と始まる 夏休み

(母) いつまでも ゴロゴロしちやう 夏休み

東中学校二年 飯田 萌吹 母 みすづ

(母) 草むしり しないと庭が ぼうぼうだ

(子) 母多忙 僕も一緒に 手伝おう

東中学校三年 石垣 海吏 母 真理子

(子) 含ほばおって 白身しろ迄ろ齧みる 西瓜すいかなか

(父) 熟うれす過ぎだ 待まちす過ぎだよと 舌したがい言うう

東中学校三年 大津 瑠璃花 父 友光

(子) 夏休み 見るものすべて 輝いて

(母) 親の目に まぶしく映る 子の姿

南が丘中学校一年 伊藤 堇 母 桃子

(子) 大丈夫? 持ってあげるよ 今日だけ

(母) 信じてる 忘れないぞ 優しい手

渋沢中学校一年 伊藤 大琥 母 愛美

(子) 勉強で 腕が痺れた 夏休み

(母) 献立で 頭が痛い 夏休み

鶴巻中学校二年 宇佐美 怜生 母 さち



第十三回秦野市親子川柳大会

☆事業概要

募集期間 一次募集 令和四年五月一日～六月三〇日
二次募集 令和四年七月二〇日～九月二日

対象者 市内在住・在学の小・中学生とその保護者

表彰式 令和四年十一月十二日(土) 午後二時

秦野市役所教育庁舎三階 大会議室

☆応募結果

応募総数 一〇〇〇点

小学生 七九九点 中学生 二〇一点

☆掲載作品

入選一一一点(入賞一〇点・佳作一〇一点)

小学生入賞九点・佳作二五点

中学生入賞二点・佳作六点

☆秦野市親子川柳大会実行委員会

委員長 志水 義夫(東海大学文学部教授)

副委員長 川口 富治(社会教育委員)

委員 高橋 弘子(社会教育委員)

委員 高橋 明久(秦野市立北小学校長)

委員 安藤 美千代(秦野市立渋沢中学校長)

委員 北村 麻祐子(秦野市PTA連絡協議会委員)

委員 相良 牧子(秦野市PTA連絡協議会委員)

☆共催

秦野市PTA連絡協議会

☆後援団体

秦野商工会議所

秦野市農業協同組合

秦野ロータリークラブ

秦野ライオンズクラブ

秦野丹沢ライオンズクラブ

秦野名水ロータリークラブ

※敬称略、順不同

第十三回秦野市親子川柳大会入選作品集

発行

令和四年十一月十二日

秦野市文化スポーツ部生涯学習課

秦野市桜町一―三―二

電話 〇四六三―八四―二七九二

